

It is useful / <to keep these four activities and four aspects clearly in mind>.   
 Learning a new language calls for **no** great originality of mind or   
 critical **talent**, / **but** it does demand an **eager** intellectual curiosity and a   
 constant and lively interest / in the endless ways [in which human ideas may   
 be expressed].

「真の主語 = listening ... writing = pronunciation ... idiom」  
 S<sub>1</sub> V<sub>1</sub> O<sub>1</sub>  
 逆接 S<sub>2</sub> V<sub>2</sub> 強調の do O<sub>2</sub>  
 関係代名詞 S'

内容Check!

問 次の各文が正しいければ ( ) に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

- You need constant exercise in listening, speaking, reading, and writing to learn a new language. ( )
- "Four aspects of language study" mentioned in the passage include grammar and idiom. ( )
- You need to have great originality of mind or critical talent when you learn a new language. ( )

覚えておきたい表現

be concerned with ~ 「～と関連している」

ℓ.7 : These activities are concerned in varying degrees with four aspects of language study 「これらの活動は言語学習の4つの側面と, それぞれ異なる度合いで, 関連している」

・be concerned with ~ 「～と関連している」という表現の間に in varying degrees 「異なる度合いで」という前置詞句が挿入されている。

Ex. Her future is vitally concerned with the result of the dance competition. 「彼女の将来はそのダンスコンクールの結果と重大な関係がある。」

no+名詞「1つの～もない」(no を使う否定)

ℓ.11 : Learning a new language calls for no great originality of mind or critical talent 「新たな言語を学ぶことは, 思考の卓越した創造性や決定的な才能を必要としてはいない」

・no+名詞で「1つの～もない」という全否定の意味。call for no great originality of mind 「ゼロの卓越した創造性を必要とする」⇒「卓越した創造性をまったく必要としない」というように考えるとわかりやすい。

Ex. Marvin has submitted no report so far. 「マーヴィンはこれまでのところレポートを1つも提出していない。」

整理しよう! \*段落要旨・構造\*

1 新たな言語を学ぶことの意味

新しい言語を学ぶこと: 新しい世界に入ることの意味 → 知的な経験が広がることになる。

- ・新しい言語を
  1. 聞いて理解できる
  2. 話すことができる
  3. 読むことができる
  4. 書くことができる
 ほど勉強するには, 何らかの強い欲求が必要。

→ この「聞く・話す・読む・書く」という活動は, 絶え間ない訓練を必要とする。

・この4つの活動は, 言語学習の4つの側面に関連している。

- 1. 発音, 2. 文法, 3. 語彙, 4. 熟語

・この4つの活動と4つの側面を念頭に置いておくと役に立つ。(主張)

2 新たな言語を学ぶために必要な要素

・卓越した創造性や決定的な才能は不要。

◆ ℓ.12 but 「しかし: 逆接」

知的好奇心や, 言語の表現方法の変化に対する強い関心が必要。

→ そのために必要な能力:

◆ ℓ.14 first of all 「まず第1に: 列举・追加」

1. まず第1に鋭い観察力
2. まねをする能力
3. 連想や一般化の能力
4. 記憶力

背景知識

●言語の4技能の指導法 — CLT (Communicative Language Teaching) の紹介

listening, speaking, reading, writing の4技能は, アメリカの大学に留学するために受験する TOEFL® (Testing of English as a Foreign Language) でも近年問われるようになってきている(一般に iBT (Internet-based Test) 試験と言われる。日本では2006年から導入された)。2009年度以後は, 日本の高校英語でもこの4つの技能を総合的に使いこなしてコミュニケーションを図ることを目指し, 科目再編された。このように4つの技能を総合的に使いこなす能力を高める発想の背景には, 数ある第二言語の指導法のうちに含まれる CLT (Communicative Language Teaching) の影響も認められる。

CLT はコミュニケーション活動を中心とした教育法をうたっているが, その内容は「コミュニケーション」という語からイメージされがちな口頭での対話に偏らない。情報獲得の技能として listening, reading の双方, 情報発信の技能として speaking, writing の双方をそれぞれコミュニケーション活動と見なし, これらすべてを効果的に動員する授業を実践する。実際の日常生活ではこれら4つの技能が複雑に絡んだ言語活動が行われているため, それに応じて4つの技能を統合した授業を受けることで学習者は4つの技能を総合的に運用できる能力を身に付けることができる。ただし, CLT はまだその駆け出しにあり, 教師の評価方法, 生徒の理解度の調整など, さまざまな問題を抱えてもいる。

【深めたい人に】: デヴィッド・マックマレー『J-Talk のための実用ティーチング・ガイド』(オックスフォード大学出版局), 『高等学校学習指導要領』(文部科学省, 2009年3月: [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf) で閲覧可能。)